

| | | | | | | | | | |
|---|------------------------------|-----|-------|--|-------------|-------------|-----------------|-------------|-------------|
| 政策体系 | 政策No. | 1 | 政策名 | にぎわい(産業の活力あふれ、交流と賑わいが生まれるまちづくり) | 施策幹事課 | 観光課 | | | |
| | 施策No. | 4 | 施策名 | 地域特性を生かした観光の推進 | 施策幹事課長名 | 實徳 太 | | | |
| 施策関係課名 | 商工振興課、霧島PR課、霧島ジオパーク推進課、地域政策課 | | | | | | | | |
| 1 基本計画期間(2018年度～2022年度)における施策の方針 | | | | | | | | | |
| <p>大自然に恵まれた、魅力あふれる「観光地・霧島」という認識を市民と共有し、国内外の観光客に「選ばれる」「また訪れたい」観光地づくりを目指します。</p> <p>そのため、観光客のニーズに合った観光素材の創出や活用、インターネットなどによる効果的な情報発信を推進します。</p> <p>また、「観光地・霧島」としてのブランド戦略を明確にし、市民、地域、観光関係者一体となったおもてなしや安心で快適な観光地づくりを展開します。</p> | | | | | | | | | |
| 2 施策の成果把握 | | | | | | | | | |
| ①成果指標 (意図の達成度を表す指標) | | | | ◎目標達成(100%以上) | | | △目標を未達成(100%未満) | | 目標達成の方向性 |
| | | 単位 | 区分 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | |
| A | 霧島市の観光に対する満足度 | % | 成り行き値 | 56.0 | 56.0 | 56.0 | 56.0 | 56.0 | 更なる増加を目指します |
| | | | 目標値 | 57.0 | 58.0 | 59.0 | 60.0 | 61.0 | |
| | | | 実績値 | | | | | | |
| | | | 達成率 | | | | | | |
| | | | 結果 | | | | | | |
| B | 観光消費額 | 百万円 | 成り行き値 | 66,717.0 | 66,717.0 | 66,717.0 | 66,717.0 | 66,717.0 | 更なる増加を目指します |
| | | | 目標値 | 67,627.0 | 68,303.0 | 68,987.0 | 69,677.0 | 70,373.0 | |
| | | | 実績値 | 66,395.7 | | | | | |
| | | | 達成率 | 98% | | | | | |
| | | | 結果 | △ | | | | | |
| C | 観光客数(宿泊+日帰り) | 人 | 成り行き値 | 7,567,900.0 | 7,567,900.0 | 7,567,900.0 | 7,567,900.0 | 7,567,900.0 | 更なる増加を目指します |
| | | | 目標値 | 7,720,000.0 | 7,797,200.0 | 7,875,200.0 | 7,954,000.0 | 8,033,500.0 | |
| | | | 実績値 | 7,606,885.0 | | | | | |
| | | | 達成率 | 99% | | | | | |
| | | | 結果 | △ | | | | | |
| D | 外国人宿泊客数 | 人 | 成り行き値 | 110,900.0 | 110,900.0 | 110,900.0 | 110,900.0 | 110,900.0 | 更なる増加を目指します |
| | | | 目標値 | 134,200.0 | 147,620.0 | 162,382.0 | 178,620.0 | 196,500.0 | |
| | | | 実績値 | 138,838.0 | | | | | |
| | | | 達成率 | 103% | | | | | |
| | | | 結果 | ◎ | | | | | |
| E | 開発又は磨き上げた観光資源の数(累計) | 本 | 成り行き値 | 43.0 | 43.0 | 43.0 | 43.0 | 43.0 | 更なる増加を目指します |
| | | | 目標値 | 47.0 | 49.0 | 51.0 | 53.0 | 55.0 | |
| | | | 実績値 | 51.0 | | | | | |
| | | | 達成率 | 109% | | | | | |
| | | | 結果 | ◎ | | | | | |
| ② 成果指標の測定方法 (実際にどのように実績を把握するか) | | | | ③ 2022年度の目標値設定の考え方 | | | | | |
| <p>A 霧島市の観光に対する満足度</p> <p>※観光総合戦略策定時に、「霧島市観光動向調査」を実施し、現状値を把握。次期、観光総合戦略策定時(2022年度)、再度調査を実施し、実績値を把握予定。</p> | | | | <p>A</p> <p>2017年度の霧島市観光動向調査の「霧島市観光に対する満足度」の56%を基準として5年間でプラス5ポイントの61%とする。</p> | | | | | |
| <p>B 観光消費額</p> <p>※観光客一人当たりの消費額×観光客数(宿泊+日帰り)</p> <p>※観光客一人当たりの消費額は:観光客数に消費額単価(29,000円、日帰り:6,000円)を乗じた額。</p> | | | | <p>B</p> <p>2017年の観光消費額目標値669億5,800万円を基準として5年間でプラス34億1,500万円の703億7,300万円とする。</p> | | | | | |
| <p>C 観光客数(宿泊+日帰り)</p> <p>※暦年(1月～12月)での実態を把握。</p> <p>※観光施設、ホテル、旅館等宿泊施設からの取得データ。</p> | | | | <p>C</p> <p>霧島市観光統計における観光客数(宿泊+日帰り)2017年の目標値764万3,600人を基準として5年間でプラス38万9,900人とする。</p> | | | | | |
| <p>D 外国人宿泊客数</p> <p>※暦年(1月～12月)での実態把握。</p> <p>※ホテル、旅館等宿泊施設からの取得データ。</p> | | | | <p>D</p> <p>霧島市観光統計における外国人宿泊者数の2017年の目標値12万2,000人を基準として5年間でプラス7万4,500人とする。</p> | | | | | |
| <p>E 開発又は磨き上げた観光資源の数(累計)</p> <p>※年度(4月～3月)での実態把握。</p> | | | | <p>E</p> <p>2017年度目標値の45本を基準として毎年2本ずつの増加を目指し、5年間でプラス10本とする。</p> | | | | | |
| | | | | <p>F</p> | | | | | |

3 基本計画期間で解決すべき施策の課題(総合計画より)

本市は、山や川、海などの大自然や歴史・文化、温泉、食等の魅力ある観光素材を国内外にPRしながら、観光施設や体験メニュー等の新たな観光資源の開発など、受入体制の充実に取り組んできました。

このような中、口蹄疫や新燃岳の噴火、硫黄山火山活動及び熊本地震等の際は、地域や観光関係者が一体となって、各種キャンペーンやおもてなし活動など誘客促進につながる取組を進めてきました。

近年は、外国人観光客を含め、個人や小団体の旅行形態が主流となっていることから、観光客のニーズに合った観光素材の創出や活用、インターネットなどによる効果的な情報発信を進めるとともに、「観光地・霧島」としてのブランド戦略を明確にし、霧島の魅力を生かした「選ばれる」観光地づくりを進める必要があります。

また、2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックや鹿児島国体を見据え、引き続き、観光関係者、地域、市民の協働によるおもてなし活動を展開するとともに、インバウンド対策や二次アクセスの充実を図ることで、「また訪れたい」満足度の高い、快適な観光地づくりを進める必要があります。

4 施策の現状

①2018年度施策の取組方針

- 市街地における観光案内の充実のため、日当山西郷どん村に観光案内所を設置する。
- 国内外において知名度を向上させ、「観光地 霧島」のブランドを発信するために、首都圏を中心としたメディアセールスや、大都市圏のエージェントに対してセールスを行う。また、大河ドラマ「西郷どん」の放映や、明治維新150年であることから、それらを契機として効果的な情報発信を行う。
- 観光客の二次アクセスの充実として、霧島連山周遊バスと妙見路線バスを引き続き運行し、空港や駅などの主要な交通拠点と観光地を結ぶ霧島周遊観光バスの実証運行を行う。

②2018年度の取組方針の達成状況

- 日当山西郷どん村内に観光案内所が移転したことで、観光客への利便性が図られた。
- 新燃岳の噴火の影響もあったが、風評被害対策を行ったことで、対前年比で微減に留まり、インバウンドは引き続き増加となった。
- 霧島市独自のInstagramアカウント「キシマイチャンネル」、テレビ、新聞等のメディアセールス、素材説明会やエージェント訪問などのセールスを行ったことで、積極的な情報発信ができた。
- 二次アクセスについては、霧島連山周遊バスと妙見路線バスを引き続き運行し、霧島周遊観光バスについては、利用者アンケートを実施し、新ルートとして「山コース」に加えて「海コース」の実証運行を開始した。

5 2019年度施策の取組方針

- 国民休養地に新たにトイレを設置し、国民休養地の利用者をはじめ、丸尾周辺を周遊する観光客への利便性を図る。また、JR肥薩線沿線駅を中心としたウォーキングルート等の開発に向けた取組を行う。
- シティプロモーション活動の一環として市民を対象としたワークショップ等の開催や霧島市独自のInstagramのアカウント「キシマイチャンネル」の管理運用を行う。また、認知度向上のため、首都圏を中心としたメディアセールスを行う。
- 観光客の二次アクセスとして引き続き霧島連山周遊バスと妙見路線バスを運行し、霧島周遊観光バスについてはアンケート結果や利用状況を参考に本格運行を目指す。

6 2020年度施策の取組方針

- JR肥薩線沿線エリアの活性化を図り、観光客を呼び込むためにウォーキングルートを設定し、観光客の周遊を促し、肥薩線の利用促進につなげる。
- シティプロモーション活動の一環として市民を対象としたワークショップ等の開催や霧島市独自のInstagramのアカウント「キシマイチャンネル」の管理運用を行う。また、認知度向上のため、首都圏を中心としたメディアセールスを行う。

| | | | | | | |
|------|---------|---|-------|------------|--------------|-----|
| 政策体系 | 政策No. | 1 | 基本事業名 | 国内外の観光客の誘致 | 基本事業 主担当課 | 観光課 |
| | 施策No. | 4 | | | | |
| | 基本事業No. | 1 | | | | |

1 基本事業の目的、取組方針(総合計画より)

日本初の国立公園「霧島」をはじめ、本市特有の歴史や文化、豊富な温泉や食などの多種多様な観光素材、空港や鉄道、高速道路などが整備された、観光地としてのポテンシャルを最大限に生かすため、霧島市観光協会をはじめとする観光関係団体や地域と一体となった誘客活動を更に推進します。

また、国内外において本市の知名度を向上させるため、「観光地・霧島」のブランドの方向性を明確にするとともに、SNSなど市民による情報発信力の強化など、様々な手法による戦略的な情報発信の取組を推進します。

2 基本事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか?

観光客については、国内外ともに団体客から個人客に旅行形態が変わりつつあることから、個人客向けに対する旅行商品の造成をエージェントに対して促すとともに、インターネットなどによる効果的な情報発信を更に進める必要がある。

3 2018年度基本事業の取組方針

■大河ドラマ「西郷どん」の放映、また明治維新150年であることから、明治維新を意識した事業を積極的に展開していく。また、大河ドラマ終了後の取組について準備する時期として、事業の見直しや新たな素材の開発を進めていく。

■観光動向を注視しながら宿泊を伴う大都市圏の観光客を対象としてエージェントに対してセールスを実施する。

■シティプロモーション活動の一環として市民を対象としたInstagram講座の実施や霧島市独自のInstagramのアカウント「キシマイチャンネル」の管理運用を行う。また、認知度向上のため、首都圏を中心としたメディアセールスを行う。

4 2018年度の取組達成状況

■素材説明会やエージェント訪問などセールスの実績は33件であった。

■本市の知名度を向上させて誘客につなげるために、新聞や旅行情報誌に季節ごとに観光情報を9件掲載した。

■市民を対象としたInstagram講座を開催した。

■霧島市独自のInstagramアカウント「キシマイチャンネル」の運用実績は投稿数255件、フォロワー数1,208件(7月3日現在)であった。

■メディアセールスによるPR実績はテレビ15件、新聞・雑誌44件、インターネット309件であった。

■上記事業等を実施した結果、新燃岳噴火の影響で観光客数は微減したものの、外国人宿泊者数は引き続き増加となった。

5 2019年度基本事業の取組方針

■宿泊を伴う関東・中部・関西等の大都市圏の観光客を対象としてエージェントに対してセールスを実施するとともに、個人客向けの効果的なPR活動を行う。また、日当山西郷どん村がオープンし、観光案内所も鹿児島空港から日当山西郷どん村内に移転したため、日当山西郷どん村を新たな観光素材としてPRを行う。

■シティプロモーション活動の一環として市民を対象としたワークショップ等の開催や霧島市独自のInstagramのアカウント「キシマイチャンネル」の管理運用を行う。また、認知度向上のため、首都圏を中心としたメディアセールスを行う。

6 2020年度基本事業の取組方針

■宿泊を伴う関東・中部・関西等の大都市圏の観光客を対象としてエージェントに対してセールスを実施するとともに、個人客向けの効果的なPR活動を行う。

■シティプロモーション活動の一環として市民を対象としたワークショップ等の開催や霧島市独自のInstagramのアカウント「キシマイチャンネル」の管理運用を行う。また、認知度向上のため、首都圏を中心としたメディアセールスを行う。

| | | | | | | |
|------|---------|---|-------|------------|--------------|-----|
| 政策体系 | 政策No. | 1 | 基本事業名 | 観光素材の創出と活用 | 基本事業 主担当課 | 観光課 |
| | 施策No. | 4 | | | | |
| | 基本事業No. | 2 | | | | |

1 基本事業の目的、取組方針(総合計画より)

本市の特性である海拔0メートルから1,700メートルにわたる海、山などの恵まれた大自然の魅力を生かし、着地型(体験型)の観光メニューや観光ルートの構築、地域の食材にこだわったご当地メニューの開発や提供など「五感に響く、魅力ある、選ばれる観光地づくり」を推進します。
また、ガイドクラブなどの活動支援や観光素材の魅力を高める取組を進めるとともに、周遊観光の促進を図るため、広域観光ルートの開発や素材の活用を推進します。

2 基本事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか?

- 日本ならではの文化や食、自然を生かした体験型のメニューが求められている。
- 宿泊に繋がる周遊観光を促進するため、広域的な観光素材の創出やルート開発が求められている。
- 観光客については、国内外ともに団体客から個人客に旅行形態が変わりつつあり、今後もその傾向が見込まれるため、個人向けの観光素材の創出と活用が求められている。

3 2018年度基本事業の取組方針

- 日当山西郷どん村のグランドオープンに向けて、霧島市の観光施設として集客できるようPRを実施する。
- 環霧島会議や錦江湾奥会議など広域的な連携組織において観光素材の創出と活用を行う。
- 官民連携した組織である霧島ガストロノミー推進協議会において、地域の食材を活用したご当地メニューの開発について研究や意見交換を進める。

4 2018年度の取組達成状況

- レストラン・観光案内所が一体となった日当山西郷どん村のグランドオープンを迎えることができた。
- 錦江湾奥会議において海洋型体験メニューを促進するための錦江湾ブルーツーリズムに関する素材調査が行われた。また、構成市を対象とする旅行商品への造成支援事業が行われた。
- 環霧島会議においては、広域での周遊観光を促進するため、環霧島スタンプラリーや環霧島周遊ツアーを実施した。また、新たな地域資源の発掘及び磨き上げを行うため、旅行エージェント及びメディア等を招待し、観光地等を巡る魅力創造事業を新たに実施し、意見聴取及び検証を行った。
- 地域の食材を活用したご当地メニューとして、霧島産の食材を2種類以上使った「つつみ料理」を募集し、応募した飲食店において、提供するようになった。

5 2019年度基本事業の取組方針

- JR肥薩線沿線駅を中心としたウォーキングルート等の開発に向けた取組を行う。
- 環霧島会議や錦江湾奥会議など広域的な連携組織において観光素材の創出と活用を行う。
- 地域の食材を活用したご当地メニューとして、霧島産の食材を2種類以上使った「つつみ料理」を募集するとともにパンフレットの制作などによって認知度の向上を図る。
- 霧島ジオパークエリアを拡大するため、新たなジオサイトの開発に着手する。

6 2020年度基本事業の取組方針

- JR肥薩線沿線駅を中心としたウォーキングルートを整備し、新たな観光素材の一つとして観光客誘客のためのPRを行う。
- 環霧島会議や錦江湾奥会議など広域的な連携組織において観光素材の創出と活用を行う。
- 地域の食材を活用したご当地メニューとして、霧島産の食材を2種類以上使った「つつみ料理」を題材としたコンテストなどを実施するとともに調理体験などのメニュー開発を行う。
- 霧島ジオパークエリアを拡大するため、新たなジオサイトの開発を引き続き行う。

| | | | | | | |
|------|---------|---|-------|-----------------|--------------|-----|
| 政策体系 | 政策No. | 1 | 基本事業名 | 利便性の高い観光地づくりの推進 | 基本事業 主担当課 | 観光課 |
| | 施策No. | 4 | | | | |
| | 基本事業No. | 3 | | | | |

1 基本事業の目的、取組方針(総合計画より)

国際線を有する空港所在都市としての強みを生かし、主要な交通結節点である空港や駅からの二次アクセスの強化を図ります。誰もが安心、快適に観光できるよう、施設などのユニバーサルデザイン化や多言語表記による案内板の設置、Wi-Fi及び超高速ブロードバンド環境の整備を促進します。

さらに、増加傾向にある外国人観光客の受入体制を強化するとともに、本市特有の自然、景観、歴史、文化を生かした観光地づくりを推進します。

2 基本事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか?

- 国内外ともに個人や小グループの旅行者が増加し、貸し切りバスを利用した物見型観光から自ら観光地や宿泊地を選択し、レンタカーやバス、鉄道を利用したフリーの観光が増加している。
- 外国人観光客が増加傾向にあり、超高速ブロードバンド環境の整備や外国語表記を掲載した看板、外国語変換ツール、パンフレットなどの充実が求められている。

3 2018年度基本事業の取組方針

- 市街地における観光案内の充実のため、日当山西郷どん村に観光案内所を設置する。
- 観光客の二次アクセスの充実として、霧島連山周遊バスと妙見路線バスを引き続き運行させるとともに、空港や駅などの主要な交通拠点と観光地を結ぶ霧島周遊観光バスの実証運行を行う。また、路線バスを利用したモデルコースなどをまとめたパンフレットを制作する。

4 2018年度の取組達成状況

- 日当山西郷どん村内に観光案内所が移転したことで、観光客への利便性が図られた。
- 霧島連山周遊バスと妙見路線バスを引き続き運行した。
- 霧島周遊観光バスについては、利用者アンケートを実施し、新たなルートとして「山コース」に加えて「海コース」の実証運行を開始した。
- 路線バスを利用したモデルコースなどをまとめたパンフレットを日本語版と多言語版の2種類制作した。
- 霧島周遊観光バスの認知度と利用者増加対策の一環として、小・中学生及びその保護者を対象とした夏休みの企画イベントを実施した。

5 2019年度基本事業の取組方針

- 国民休養地に新たにトイレを設置し、国民休養地の利用者をはじめ、丸尾周辺を周遊する観光客への利便性を図る。
- 観光客の二次アクセスの充実として、霧島連山周遊バスと妙見路線バスを引き続き運行させるとともに、空港や駅などの主要な交通拠点と観光地を結ぶ霧島周遊観光バスについてはアンケート結果や利用状況を参考に本格運行を目指す。

6 2020年度基本事業の取組方針

- JR肥薩線沿線の活性化を図るため、駅を中心としたウォーキングコースを整備し、新たにマップ等を作成し、観光客の周遊を促す。
- 観光客の二次アクセスの充実として運行する霧島連山周遊バス及び妙見路線バス並びに霧島周遊観光バスについて利用者を増やすためのPRを強化する。